

真狩村ゼロカーボンシティ宣言

- 2050年温室効果ガス排出量実質ゼロを目指して -

豊かな恵みを育み、私たちの暮らしを支えている地球の環境は今、大きな危機に面しています。近年、地球温暖化を起因とする気候変動は、世界中の人々や生態系に影響を与える深刻な問題となっており、国内においても深刻な自然災害が頻発しています。このままでは、さらなる自然災害の発生や激甚化されることが予測され、もはや全国民が当事者として認識すべき世界的な喫緊の課題で、地球温暖化抑制に関する意識も急速に高まりつつあります。

2015年に合意されたパリ協定では「産業革命前からの平均気温上昇の幅を2℃未満とし、さらに1.5℃に抑えるよう努力する」との目標が国際的に広く共有され、2018年に公表された気候変動に関する政府間パネル（IPCC）報告書では、1.5℃に抑えるためには、2050年までにCO₂排出量を実質ゼロとすることが必要だと科学的に示されました。そして、2021年国連気候変動枠組条約第26回締約国会議（COP26）にて、1.5℃目標に向かって努力することが正式に合意され、今後はこの目標を達成するための取組を加速していかなければなりません。

真狩村は、蝦夷富士と呼ばれる羊蹄山の南麓に位置する純農村です。環境に恵まれ、じゃがいもやだいこん、にんじんなどの作物のほか、ゆり根は生産量日本一を誇ります。基幹産業の農業を、この豊かな自然を、そして子どもたちの未来を守るためにも温暖化対策へ積極的に取り組むことが重要であります。

本村では、これまでも真狩村温暖化対策実行計画を推進し、温室効果ガス排出量の削減に取り組んでまいりましたが、今後は、公共施設への再生可能エネルギー設備の採用や、地球温暖化対策実行計画の見直しなどより一層の取組が求められております。

総合計画にも掲げるスローガン「笑顔でつなぐ うるおいあふれる村 まっかり」の実現と将来にわたり豊かな自然と人とが共生・調和できるよう、2050年までに温室効果ガス実質ゼロを目指し、真狩村一丸となって取組を推進していくことをここに宣言します。

令和 4年 3月11日

真狩村長 岩原 清一